

平成26年5月22日(木)

福岡市NPO活動推進補助金事業 報告

「理学療法士・作業療法士から学ぶ研修」

特定非営利活動法人

障がい者より良い暮らしネット

当会の紹介

- 今津特別支援学校を卒業生の母3人でスタート
- 20歳知的障害女性が母親の急死後熊本との県境にある施設に入所
- 福岡市に限らず現在の障がい者の置かれた状況

活動の目標

■長期目標

- 障がいがあっても地域の中で普通に暮らせる社会づくり
- 親亡き後も、障がいのある人が守られる仕組みづくり

■短期目標

- 利用者の立場に立ったショートステイの実現
- ケアホームについての見通し

活動の方法

- 障がいがあっても 親亡き後も
いつもの街で、いつもの暮らしを
- 2012年5月 NPO法人化
- 会員100名超(2013年)
- やれることはなんでもやる
ムーブメントをまきおこす！

補助事業の概要

- タイトル「理学療法士・作業療法士に学ぶ研修」
- 日時：平成25年11月16日～17日（日）
- 場所：福岡市東区
- 講演 理学療法士 作業療法士
- 調理実習を通してのアドバイス・ワークショップ
講評・質疑応答
- 参加者：述べ37人

目的

- 障がい者支援の現場には医療的な視点が不可欠であるという認識をもってほしい
- つまり福祉と医療の連携が必要
- 福祉サービス事業所内で支援の質の向上
- 利用者の安全・安心の向上
- 医療職と福祉職、および職員間のネットワークづくり











成果 アンケートの声

- 支援にあたって、試行錯誤していることは「ひとり」の人を大事にするという姿勢であることだと認識することができた。
- 支援方法が画一的になるなかで、仮想ができなくなってきたおり、その状態を打破したいと強く思った。(思っていたのだが、自分自身の見解に不安にもあり)打破すべき時だと確信したので、現場に持ち帰りフィードバックをすぐに行います。

成果 アンケートの声

- 内容全て、日々考えてまた、悩んでいることと当てはまってました。とても勉強になりました。明日から実践してみたいこと沢山ヒントいただきました。
- 今回のような医療分野との連携した講習は福祉現場の支援員として、とても有難いです。また是非お願いしたいです。

成果 アンケートの声

- 健側に注目することが多く、反対側は補助具などで補うことの方法に終始していた。添えるだけでも感覚入力することによって、体のバランスを補うことなどに気付けたので、今後の仕事に活用したい。

課題

応募者が少ない

- 時期がわるい？（障がい者スポーツ大会・秋祭り・バザー等）
- 必要性を伝えきれているか？

展望

- 医療と福祉の連携は他都市では当たり前に行われてきたこと。
- 北九州市ではすでにPT・OTが福祉サービス事業所支援員として配置されているケースがあり、2014年10月に、同系列の療養介護事業所が福岡市に新規オープンする。その動きに注目し、今後の活動方針を決める

市の補助事業に採択されたこと による効果

- 障がい者当事者からみると、行政の施策は実態や願いからずれていることも多々ある。
- 福岡市では医療と福祉の連携は図られていないのが実情
例：北九州総合療育センターやからつ医療センターなどは福祉施設と病院が併設)
(福岡市心身障害福祉センターは病院機能がない)
- 成人期の福祉現場にも医療の視点が必要。
- 市の補助事業に採択され、このことを社会にアピールする力になった。